

# 歴史の中の東松山

太古の昔から、この地には  
人々の暮らしと文化が  
息づいていました。

- ナイフ型石器の使用始まる
- 土器が発見される
- 竪穴住居が出現
- 呪術的道具が多つくられる
- 稲作が伝わる
- ムラがつくられる

## 原始

- 石器を持った人が登場
- 土器をつくり、集落がつくられる
- 稲作が始まりムラがつくれ、岩鼻式、吉ヶ谷式と呼ばれる弥生土器がつくられる



- クニから国へ
- 大型古墳がつくられる
- 律令制が導入され国家がつくられる
- 奈良、京都と都がおかれる

## 古代

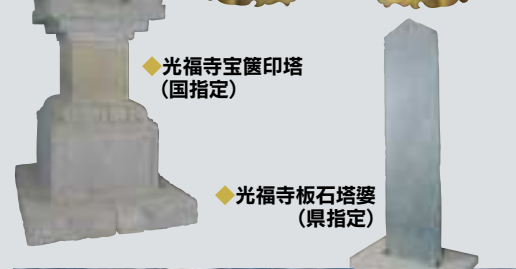
- 畿内文化と在来弥生文化とを融合させた五領文化、五領式土器が生まれる
- 古墳群がつくられる
- 郡家がおかれ、地方政治の拠点となる



- 源頼朝が鎌倉幕府を開く、武蔵武士の活躍
- 建武の新政、室町幕府の開府
- 南北朝の内乱を経て戦国時代へ

## 中世

- 野本氏、小代氏などの武士団が活躍する
- 中世城館が築城される
- 板石塔婆が造立される
- 小田原北条氏が進出し、上田氏の松山城(吉見町)が比企一帯の中心となり、松山には城下町がつくられる



- 江戸幕府が開かれ、幕藩社会がつくられる
- 鎖国が行われる
- 元禄文化、化政文化
- 黒船来航

## 近世

- 天領や旗本領として統治される
- 交通の要所となり「宿」・「市」がつくられ、商工業も発達
- 幕末から明治にかけて、松山陣屋が置かれる



- 明治維新と文明開化
- 自由民権運動
- 関東大震災
- 大正デモクラシー
- 経済恐慌
- 第2次世界大戦
- 町村合併

## 近現代

- 人間県に所属 (明治4) 後、熊谷県 (明治6)、埼玉県 (明治9) に属す。明治12年には比企郡に所属。その後、町村合併があり、明治22年に松山町・大岡村・唐子村・高坂村・野本村が成立
- 東武東上線高坂駅、武州松山駅が開設
- 熊谷自動車が行田～小川～松山を結ぶ
- チーゼル機器の工場進出
- 昭和29年、1町4村合併、東松山市誕生

